

## 仲間と一緒にだから楽しい、私たちの旅行 －旅行行事の意味を考える－

社会福祉法人せたがや樫の木会 上町工房

田島 和美

(共に働く仲間 余暇 大人として)

### 1. はじめに

上町工房は主に知的障害の方を対象とした就労継続支援B型の施設で、現在25名の方が通所されている。『働くこと』を通して、仲間と共に充実した生活を送れるように支援する」というサブミッションの元、「働くこと」「身体づくり」「仲間づくり」「余暇支援」を4つの柱として活動を組み立て、日々をすすめている。得手、不得手があるのは当たり前、それぞれが安心して自分の持ち味を発揮し、主体的に生き活きと過ごせることを目指し、作業だけでなく、毎日の体操や発表の場、毎月の誕生会や工賃日お茶会、また新年会や七夕、さつまいも掘りや忘年会など季節や節目を感じられる行事を取り入れ、年間を通してめりはりを持った過ごしを大切にしています。

このように私たちが意義を持って行っている支援のうち、余暇の一つとなる「旅行」に焦点を置き、その在り方を改めて考え発表する。

### 2. 「旅行」行事の取り組み

私たちは日帰り旅行と宿泊旅行にそれぞれ1度ずつ出かけ、年間2回の旅行行事を設けている。普段毎日共に働く仲間同士、日々の中では一緒に過ごすことで嬉しい気持ちになったり、楽しさを共有できることもあれば、時に誤解が生じ、思いが行き違ってしまうこともある。それはごく当たり前のことで、だからといって一人で過ごすことばかりが気楽なわけではないし、仲間との関わりを失くすことが適切なわけでもない。様々な経験のなかで「こうしたらうまくいく」と感じ、その経験を積み重ね、お互いを知り合うことで、和やかで安心できる対人関係を少しずつ築いていけることを目指している。仲間同士が仕事を離れ、その季節に合った風景を見たり、体験したり、ご当地グルメを一緒に味わい、常識的な節度の中ではありながらも羽目を外して大はしゃぎする、これも当たり前のこととしてむしろそんな体験ができるような時間にするのも旅行行事の意義のうちのひとつと思っている。

学生時は外出や宿泊の「練習・訓練」として捉えられる行事だろう。またかつては学校卒業後の作業所や生活の場でも同様の意味を持って行われてきた。大人の旅行、余暇として楽しい経験となるように「旅行」行事を行っている。



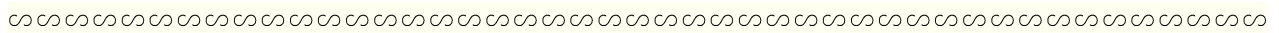


### 3. ふたつのエピソードから感じたこと

エピソード1 「お背中ながしまししょうか」、エピソード2 「摘めなくても、みんなで食べるといちご狩り」 ふたつのエピソードを通して改めて感じたこと、みんなで出かけること、楽しむこと、大いにはしゃいだってよいこと、仲間関係の大切さを考察する。

### 4. 考察、まとめ

18歳から65歳の幅広い年齢層の方々が、共に働く仲間として毎日出合い、「できた」ことや素敵な姿をお互いに認め合い、いろいろな経験を重ねていきながら、規律やあるべき姿ばかりを問われることが少ない余暇時間を共にすることには意味がある。「大人の旅行」、純粋に楽しむこと、その土地ならではのものに仲間と一緒に触れること、楽しさを共有することは、和やかな対人関係の自信となり、その人らしい過ぎしの築きに繋がっていくのではないのか。



<助言者コメント>

横山 順一（日本体育大学体育学部健康学科教授）



発表事例に興味深く拝聴させていただきました。日頃から職員の方々が利用者にとどのように向き合っているかが思い浮かべられるような事例です。多くの施設が行事としての「旅行」を実施していますが、そこにどのような意義を持たせているのでしょうか。

支援の出発点は「支援を要している人が何をしたいか」です。施設の旅行において最も大切にされなければならないのは、参加される利用者の「仲間と一緒に旅行に行ったら楽しみたい」という気持ちです。発表の中にあつた「大人の旅行」への拘りや2つのエピソードには、職員の方々の思いがぎっしりと詰まっているように思えました。また、行っている支援に満足することなく、「その意味、在り方を整理し、改めて大切さを考える」というところが素晴らしいと感じます。この施設の旅行に同行してみたいと思えるような、そんな発表でした。